さいたま市 見沼区
浸水（内水）防災マップ

2つの写真は市内で浸水した事例です。

浸水（内水）防災マップとは？

この地図は、**近年10年（平成13年度～平成22年度）の間に市民の皆さんから通報があった浸水情報をもとに、地形情報を考慮して設定**した内水による浸水想定区域（浸水する範囲とその程度）及び避難場所などを示したマップです。

内水による浸水とは、雨の量が下水道などの排水施設の能力を超えるときや、河川などの排水先の水位が高くなったときに、雨水を排水できなくなり、浸水することです。

雨の降り方や土地利用形態の変化などにより、この浸水想定区域と異なる場合があります。

この浸水想定区域は、**河川のはん濫を考慮していません。**河川がはん濫したときに、浸水が想定される区域などを確認する場合は、**洪水ハザードマップなどを参照してください。**

マップの見方・使い方

1. このマップでは、2段階に浸水する深さを色分けしてあります。**あなたの住んでいる地域の浸水状況を確認**してください。
2. 浸水想定区域以外の最寄りの避難場所、安全に移動できるルートなどを確認しておいてください。浸水の状況が変化する場合もあるので、複数の避難場所、複数のルートを考えておきましょう。
3. 雨がさらに激しくなり、河川のはん濫のおそれがある場合は、市から避難勧告・避難指示などが発令されます。はん濫した水の勢いは激しく、堤防近くの家屋は破壊・流出の可能性があり、人命に危険が及ぶことも考えられるので、最寄の避難場所へ速やかに避難してください。

関係機関の連絡先

浸水に備えて
- ◎防災対策全般に関すること …… 総務局危機管理部防災課 …… 電話番号 048-829-1126

浸水が発生したとき
- ◎住宅の浸水や道路冠水が発生したとき …… 見沼区役所 …… 電話番号 048-687-1111
- ◎避難場所の開設状況を確認したいとき …… 総務局危機管理部防災課 …… 電話番号 048-829-1126
- ◎緊急性がある場合、救急車や消防隊の活動が必要なとき …… 消防局 …… 電話番号 119

浸水被害を受けたあと
- ◎り災証明の発行について …… 見沼区役所総務課 …… 電話番号 048-681-6013
- ◎冠水した道路の消毒について …… 見沼区役所くらし応援室 …… 電話番号 048-681-6026

その他
- ◎その他のお問合せ …… さいたまコールセンター …… 電話番号 048-835-3156

わが家の防災メモ

わが家の避難場所1		家族の集合場所	
わが家の避難場所2		災害時の連絡先	

	名前	血液型	電話番号	会社・学校名	会社・学校の連絡先
家族の連絡先			－ －		
			－ －		
			－ －		
			－ －		

災害時の連絡方法

「171」災害用伝言ダイヤル

＊「171」をダイヤルし、利用ガイダンスにしたがって伝言の録音・再生を行ってください。
＊録音された伝言は被災地の方の電話番号を知っているすべての方が聞くことができます。
＊提供開始や録音件数等、提供条件についてはNTTで決定し、テレビ・ラジオ等でお知らせします。
＊詳しくは･･･NTT東日本 災害用伝言ダイヤル　http://www.ntt-east.co.jp/saigai/

携帯電話 災害用伝言板サービス

＊震度6弱以上の地震などの大きな災害が発生した時に、携帯電話・PHSを利用して自身の安否情報を登録、家族や友人の安否情報を確認することができます。
＊それぞれの携帯電話・PHSの「トップメニュー」から**「災害用伝言板」**を選択して下さい。
＊他社携帯・PHSおよびパソコンなどからも、家族や友人の安否情報をご確認いただけます。

携帯・PHSおよびパソコンからの安否情報の確認方法
- NTTドコモ …… http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi
- au by KDDI …… http://dengon.ezweb.ne.jp
- ソフトバンクモバイル …… http://dengon.softbank.ne.jp
- イー・モバイル …… http://dengon.emnet.ne.jp/
- ウィルコム …… http://dengon.willcom-inc.com

さいたま市

さいたま市浸水（内水）防災マップに関するお問合せ先
- 総務局 危機管理部 防災課　TEL 048-829-1126　FAX 048-829-1978
- 建設局 土木部 河川課　TEL 048-829-1585　FAX 048-829-1968
- 建設局 下水道部 下水道計画課　TEL 048-829-1566　FAX 048-829-1975

発行　平成23年10月

気象情報の入手と行動の目安

雨の強さと降り方の目安

降っている雨を観察することで、だいたいの雨量を知ることができます。危険な状態になる前に自分で判断して避難ができるよう、雨の降り方と雨量の関係を知っておきましょう。

下記の記述は気象庁による「雨の強さと降り方」の目安を参考にして作成したものです。

テレビやラジオなどから得た大雨に関する情報と、この「さいたま市浸水（内水）防災マップ」に示された浸水想定区域の情報を照らし合わせて活用してください。

予報用語（1時間雨量）	やや強い雨（10～20mm）	強い雨（20～30mm）	激しい雨（30～50mm）	非常に激しい雨（50～80mm）	猛烈な雨（80mm以上）
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る（ゴーゴーと降り続く）	息苦しくなるような圧迫感がある恐怖を感じる
人への影響	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	傘をさしてもぬれる		傘は全く役に立たなくなる	
屋内（木造住宅を想定）	雨の音で話し声がよく聞き取れない	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく			
屋外の様子	地面一面に水たまりができる		道路が川のようになる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	
車に乗っていて		ワイパーを速くしても見づらい	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる	車の運転は危険	

行動の目安

情報収集	気象情報の収集 雨の継続には、地盤の緩みに注意	予報・警報等に注意	避難に関する情報に注意	
自助 自分でできる予防措置等	河川や水路等注意を要する箇所等に近づかない	土のう等の準備 低地部にある車の移動	初期の浸水対応 地下空間から退避	避難の準備 状況に応じ、速やかな避難
共助 地域防災への取組等		状況により自主防災組織の活動への協力	状況により災害時要援護者への支援に協力	

大雨のときの行動の目安を書いておいたよ。
雨の降り方や地形・土地利用などの状況によって地域の危険度が変るから、雨の降り方や周囲の状況をよく見て、冷静に判断して行動しよう!

情報の伝達

災害時に備え、気象情報や防災知識をインターネットで入手

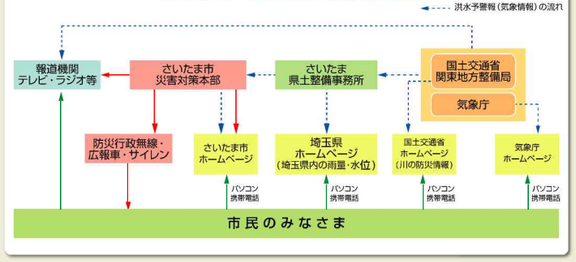
インターネット、ラジオ、テレビなどで、リアルタイムで正確な情報を入手することができますので、積極的に活用しましょう。避難指示がでたときは、その指示に従い最寄の避難場所に避難してください。

- ■さいたま市ホームページ …… 〔パソコン〕 http://city.saitama.jp/
- ■埼玉県内の雨量・水位 …… 〔パソコン〕 http://micos-sa.jwa.or.jp/metro/saitama/pc_web/
- ■国土交通省（リアルタイム）川の防災情報 …… 〔パソコン〕 http://www.river.go.jp/ 〔携帯電話〕 http://i.river.go.jp/
- ■気象庁ホームページ …… 〔パソコン〕 http://www.jma.go.jp/jma/

情報を収集して、冷静に判断しましょう

激しい降雨が継続すると、内水による浸水から洪水（外水はん濫）に移行する場合があります。
気象、河川に係わる警報や避難情報にも充分注意し、あわてず冷静に判断して行動しましょう。

洪水予報・避難情報の伝達経路



緊急の度合（高）	避難情報の種類	とるべき行動
	避難準備情報 避難しなくてはならない状況になる可能性があるため、その準備を促す発令です。	・いつでも避難できるように、避難の準備をしましょう。 ・ラジオやテレビの放送、市役所からの広報に注意しましょう。 ・高齢者や子どもは、早めに避難しましょう。
	避難勧告 市民に避難の開始を勧める発令です。	・お互いに助け合って、近くの避難場所に、速やかに避難を始めましょう。 ・自動車での避難はできるだけやめましょう。
	避難指示 市民に対する避難の命令を行うものです。	・近くの避難場所に直ちに避難しましょう。

日頃からの心がけ

水害に強いまちづくり

いつ起きてもおかしくない水害へ備えるためには、行政 公助 だけでなく、市民の皆さんが防災に対する意識を常に持ち、防災対策に取り組むこと 自助 が重要です。さらに、地域の人々のつながりを中心とした地域防災力 共助 が、水害発生時における被害の軽減に大きな効果を発揮します。

「みんなが手を取りあって取り組む水害に強いまちづくり」が必要です。

各家庭で備えましょう 自助

水害に備えて

地域に降った雨は、一部は地面に浸透し、残りの大部分は下水道や排水路を通って河川に流れ込みます。周辺の土地利用状況が変化（都市化等）して、雨水の浸透する量が減ると、短時間に下水道などへ雨水が集中し、浸水が発生しやすくなります。**浸透施設や貯留施設を設置**し、雨水が下水道などに集中しないようにすることが有効です。

土地が周辺より低い場所や、地下室などを設置する場合には、浸水に対して安全になるように、**自助対策を行うことが必要**です。

土のうを常備し、緊急時に積み上げるなどの対策も有効です。

緊急時に、すばやく対応できるよう、**防災訓練や避難訓練に積極的に参加**しましょう。

家庭内での準備

- 必要最小限の非常用持ち出し品を準備しましょう。（日頃からの準備が大切です。）
- 懐中電灯や携帯ラジオ、予備の電池も準備しましょう。
- 生活用水を貯めておきましょう。
- 避難場所までのルートをあらかじめ決めておき、安全に通行できるかを実際に歩いて確認しておきましょう。
- 近くの雨水ます周辺の清掃にご協力をお願いします。

簡単な浸水の防止方法

水深が浅い段階なら、家庭にあるごみ袋、レジャーシート、プランターなどを活用した応急処置で対処が可能です。

あくまでも水深が浅い初期の段階で行うものです。危険を感じる前に早めに避難しましょう。

（ごみ袋を利用）
- 大きめのごみ袋などを二重にし、中に半分程度の水（ふろの残り水などが便利）を入れ、すき間なく並べます。段ボールに入れて連結すると、強度が増し、積み重ねることもできます。

（シートを利用）
- 土を入れたプランターを横に並べ、レジャーシートを巻き込んで補強します。プランターの代わりに水を入れたポリタンクや重くしたビールケースなども利用できます。

地域を守るために

自主防災組織の活動 共助

災害による被害を最小限におさえるには、まず自分と家族が無事であることが大切となります。それから、地域住民が協力して負傷者等の救出救護などを行うことが重要となります。そのために「自分たちのまちは、自分たちで守る」自主防災組織が必要となります。

この自主防災組織は、地域住民が自主的に連携して防災活動を行う団体のことをいいます。日頃から防災知識の普及、地域の安全確認、防災資機材の備蓄、自主防災訓練などを行い、災害時には救出救護、安否確認、炊き出しなどを地域で協力して行います。

近隣と協力し救助活動
- 救助を求める通報を行う。
- 自主防災組織の活動に協力する。
- ラジオなどにより情報を確認する。

所定の場所に参集
- 情報班により地域内の被害情報を収集する。
- 救出、救護班による救出活動を行う。
- 負傷者の応急救護、救護所への搬送を行う。
- 地域の事業所の協力を得る。
- 困難な場合は消防署などへ要請する。

自主防災組織に協力し、秩序ある避難生活
- 助け合いの心を持ち、協力し合う。

市と協力し避難場所の運営
- 秩序ある避難場所の運営を行う。
- 住民どうしの役割分担、災害時要援護者に対する配慮。

災害時要援護者への協力 共助

高齢者・乳幼児・傷病者・外国人の方には
- 高齢者や乳幼児は、手をつなぐ、背負うなどしてしっかり援護します。
- 傷病者には複数の人で対応しましょう。
- 急を要するときはひもなどを使って背負い、安全な場所へ避難しましょう。
- 外国人の方で言葉が通じない場合には、声をかけて身振り手振りを交えて誘導します。

目の不自由な人には
- 「お手伝いしましょうか」などと、まず声をかけましょう。
- 話しかける相手の声が頼りなので、話すときは、はっきりゆっくり、大きな声で、誘導するときは、杖をもっていないほうのひじのあたりを軽く触れるか、腕をかして、半歩前くらいをゆっくり歩きましょう。

からだの不自由な人には
- それぞれの人に適した誘導方法を確認しましょう。車椅子の場合は、必ず3人で協力し、階段を上がるときは前向きに、下がるときは後ろ向きにして、恐怖感を与えないように配慮しましょう。

耳の不自由な人には
- 話すときは、近くまで寄って相手にまっすぐ顔を向け、口を大きくはっきり動かしましょう。口頭でわからないようであれば、紙とペンで筆談しましょう。紙やペンがなければ、相手の手のひらに字を書いて筆談しましょう。

浸水発生のメカニズム

内水による浸水の発生

降った雨は、下水道などを通って河川に排水されています。

大雨が降ると、下水道などですべての雨水を排水できなくなり、内水による浸水が起こり始めます。

内水による浸水とは

内水による浸水とは、雨の量が下水道などの排水施設の能力を超えるときや、河川などの排水先の水位が高くなったときに雨水を排水できなくなり、浸水することです。

本市においても、都市化の進展により内水による浸水の危険性が高まっています。

洪水（外水はん濫）の発生

もっと雨が激しくなると、洪水（外水はん濫）の危険性が高まります。

洪水（外水はん濫）とは

洪水（外水はん濫）とは、大雨によって河川などの水位が高くなると堤防を越えて水があふれたり、堤防の土砂が流出して決壊したりすることです。

洪水（外水はん濫）は、家屋の倒壊や流出など、大規模な被害を引き起こすことがあります。

堤防が決壊すると大規模な被害が発生します。
洪水の危険性がある場合は、洪水ハザードマップを参照し、洪水に備えましょう。

洪水ハザードマップに関するお問合せ先 ■ 総務局 危機管理部 防災課　TEL 048-829-1126　FAX 048-829-1978

【局地的大雨について】

近年、全国的に増加している局地的大雨は、報道機関などで**ゲリラ豪雨**と呼ばれ、他の地域が小雨であっても、ごく限られた区域で短時間に降る激しい雨のことです。

なお、大雨や洪水の注意報・警報が発表される気象状態でなくても、急な強い雨のため下水道や河川が短時間に増水するなど、急激な状況変化により重大な事故を引き起こすことがありますので注意が必要です。

避難時の注意点

集中豪雨などにより、浸水が急に起こることがあるため、早めの対応を心がけましょう。
水深20センチメートル程度でも水の流れによっては、歩行が困難になります。
高齢者や子供には、大変危険です。無理せず、高所で救助を待ちましょう。

正確な情報収集と自主的避難を
- ラジオ・テレビで最新の気象情報、災害情報、避難情報に注意しましょう。
- 雨の降り方や浸水の状況に注意し、危険を感じたら自主的に避難しましょう。

避難の呼びかけに注意を
- 危険が迫ったときには、市役所や消防団から避難の呼びかけをすることがあります。
- 呼びかけがあった場合には、速やかに避難してください。

動きやすい服装、2人以上での避難
- 避難するときは、動きやすい服装で、2人以上での行動を心がけましょう。

高齢者などの避難に協力を
- 高齢者や子ども、傷病者など災害時要援護者は、早めの避難が必要です。
- 周囲の方々は避難に協力しましょう。

自動車での避難は控えて
- 自動車での避難は緊急車両の通行の妨げになりますので、特別の場合を除きやめましょう。
- また、堤防や道路に自動車を放置すると、水防活動の妨げになりますのでやめましょう。

もしも、逃げ遅れたら
- 近くの丈夫な建物の三階以上に避難して救助を待ちましょう。
- 住宅の二階部分でも場合によっては危険な場合があります。

地下道などの注意を要する場所
- 市内には道路などの立体交差部が数多くあります。とくに、浸水時などに水深が大きくなると予想される地下道などは、避けて避難行動をとることが必要です。

地下空間の危険性

地上が冠水すると一気に水が流れ込んできます

換気口や採光窓など、思わぬところから水が入ってくることがあります。
また、流れ落ちる水で階段は登れません。

浸水すると停電するおそれがあります

停電すると電灯が消えて真っ暗になります。なお、エレベーターは使えません。

地下室では外の様子がわかりません

地下室では雨の強さや天候の急激な変化がわかりませんので、気象情報などに注意が必要です。
また、外の様子に変化があったときは地下室内の人に知らせましょう。

水圧でドアは開きません

ある程度浸水すると、外開きでも内開きでも、ドアを開けることができなくなります。